

平成26年度

事業報告書



学校法人山陽学園

## 目 次

### 1. 法人の概要

(1) 建学の精神と教育理念	1
(2) 学校法人の沿革	1
(3) 設置する学校・学部・学科等	2
(4) 学生・生徒・園児の在籍状況	3
(5) 役員の概要	3
(6) 評議員の概要	4
(7) 教職員の概要	4

### 2. 事業の概要

(1) 主な取組み	5
(2) 学生生徒等の確保	5
(3) 地域・社会サービス	6
(4) 施設・設備の状況、整備	7

### 3. 財務の概要

(1) 決算の概要	
① 貸借対照表の状況	9
② 収支計算書の状況	10
(2) 経年比較	
① 貸借対照表	13
② 収支計算書	
ア) 資金収支計算書	13
イ) 消費収支計算書	14
(3) 主要な財務比率比較	14
(4) その他	
① 補助金の状況	15

# 学校法人山陽学園 平成26年度事業報告

## 1. 法人の概要

### (1) 建学の精神と教育理念

山陽学園は、明治期のわが国における女子教育の黎明期に、岡山市内の先覚的な人々によって創設され、その後明治・大正・昭和を通じて51年に亘り校長を務めた上代淑の人格教育により、女子教育界における高い評価を得ました。

現在は、幼稚園、中学校、高等学校、短期大学並びに大学を擁する総合学園として歩んでいます。

明治19年の本学園「設立趣旨書」には、「男女は車の両輪である。女性は知徳において男性に劣ることなく、志望を共にし精神を等しくして社会の公益をはかるべきである。知徳兼備の女子を養成して婦人社会の改良をはかる。」とあります。

この開明的で先見性に富んだ精神に基づき、男女がともにその個性と能力を十分に発揮し、喜びも責任も分かち合う男女共同参画社会の担い手にふさわしい人格と能力を備えた人材の育成に努めます。

また、本学園の教育のバックボーンとして受け継がれてきた「愛と奉仕」の精神を全教職員及び本学園に学ぶ者すべてが共有することを目指しています。

### (2) 学校法人の沿革

- 明治19年 岡山市北区中山下に山陽英和女学校創設
- 31年 校名を山陽高等女学校に改称
- 37年 財団法人となる。
- 41年 上代淑校長就任
- 昭和11年 創立50周年記念式挙行
- 22年 岡山市中区門田屋敷の現校地（門田屋敷キャンパス）を取得  
学制改革により山陽高等女学校に併設中学校を設置
- 23年 財団法人を山陽学園と改称  
山陽女子高等学校、山陽女子中学校と改称
- 26年 学校法人山陽学園発足
- 41年 山陽女子高等学校に音楽科を設置
- 44年 岡山市中区平井の現校地（平井キャンパス）に山陽学園短期大学を開学  
家政科を設置
- 45年 短期大学家政科を家政学科家政学専攻並びに家政学科食物栄養学専攻に  
改組
- 47年 短期大学に幼児教育学科を設置
- 49年 山陽学園短期大学附属幼稚園を開園
- 50年 短期大学幼児教育学科に専攻科を設置
- 61年 学園創立100周年記念式典及び祝賀会を挙行
- 63年 山陽学園短期大学国際教養学科を設置
- 平成 2年 短期大学国際教養学科に専攻科を設置

- 3年 短期大学家政学科食物栄養学専攻を食物栄養学科に改組。家政学科家政学専攻を生活学科に名称変更、4学科編成とする。
- 5年 高等学校に国際文化コースを設置
- 6年 山陽学園大学開学  
短期大学国際教養学科を基とした発展的改組を行い、国際文化学部コミュニケーション学科、比較文化学科の1学部2学科を開設する。
- 11年 短期大学生生活学科を生活デザイン学科、人間文化学科の2学科に改組
- 13年 高等学校普通科を特別進学コース・総合進学コース・国際文化コースに再編成。音楽科に器楽専攻と音楽専攻を新設
- 15年 大学国際文化学部コミュニケーション学科、比較文化学科の1学部2学科編成をコミュニケーション学部コミュニケーション学科の1学部1学科に再編  
短期大学生生活デザイン学科をキャリアデザイン学科に名称変更
- 17年 高等学校国際文化コースをアクティブイングリッシュコースに改称
- 18年 学園創立120周年記念式典及び祝賀会を挙げる
- 21年 大学、短期大学を男女共学化  
大学コミュニケーション学部を改組し、総合人間学部言語文化学科、生活心理学科を開設  
看護学部看護学科を開設  
高等学校普通科にスーパー特別進学コースを新設  
中学校を特別進学コースと総合コースに再編成  
短期大学附属幼稚園収容定員120名に変更
- 22年 山陽学園短期大学キャリアデザイン学科を廃科  
山陽学園短期大学大学評価・学位授与機構認定専攻科幼児教育学専攻を廃止
- 23年 高等学校普通科にMusicコースを新設  
大学が認定看護師教育機関に認定（認定看護分野：皮膚・排泄ケア）
- 24年 高等学校普通科にエクセルコースを新設
- 25年 大学コミュニケーション学部コミュニケーション学科を廃止  
高等学校音楽科を廃止  
大学院看護学研究科看護学専攻設置

(3) 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等	摘要
山陽学園大学	平成6年4月	大学院 看護学研究科 看護学部 看護学科 総合人間学部 言語文化学科 生活心理学科	
山陽学園短期大学	昭和44年4月	食物栄養学科 幼児教育学科	

山陽女子高等学校	明治19年	全日制（普通科）	
山陽女子中学校	昭和22年4月		
山陽学園短期大学 附属幼稚園	昭和49年4月		

(4) 学生・生徒・園児の在籍状況

(平成26年5月1日現在) (単位 人)

学 校 名		入学定員	収容定員	現 員	摘 要
山陽学園大学	大学院 看護学研究科	6	12	9	
	看護学部	80	320	352	
	総合人間学部	120	500	292	
	計	206	832	653	
山陽学園短期 大学	食物栄養学科	80	160	145	
	幼児教育学科	100	200	231	
	計	180	360	376	
山陽女子高等学校		200	600	528	
山陽女子中学校		70	210	181	
山陽学園短期大学附属幼稚園		40	120	80	

(5) 役員概要

(平成26年12月17日現在)  
定数 理事11～16名、監事2名

区 分	氏 名	常勤・非 常勤の別	摘 要
理 事 長	渡邊 雅浩	常 勤	
理 事	實成 文彦	常 勤	大学長兼短期大学長兼幼稚園長
	熊城 逸子	常 勤	高等学校長兼中学校長
	濱田 栄夫	常 勤	大学副学長兼短期大学副学長
	塩山 啓子	常 勤	高等学校副校長兼中学校副校長
	三浦 裕子	非常勤	

	稲垣 美穂	非常勤	
	松田 堯	非常勤	
	守屋 勝利	非常勤	
	太田 健一	非常勤	
	齊藤 育子	非常勤	
	岸本 卓巳	非常勤	
監 事	三宅 修	非常勤	
	岡本 友美	非常勤	

(6) 評議員の概要

(平成26年5月20日現在) (単位 人)

区 分	定 数	現 員		
		常勤	非常勤	計
評議員	28～35	10	19	29

(7) 教職員の概要

(平成26年5月1日現在) (単位 人)

区 分	教 員		職 員	
	本 務	兼 務	本 務	兼 務
法人本部	—	—	3	0
山陽学園大学	65	65	24	1
山陽学園短期大学	17	28	9	5
山陽女子高等学校	38	51	6	2
山陽女子中学校	15	3	2	0
山陽学園短期大学 附属幼稚園	5	4	0	1
合 計	140	151	44	7

## 2. 事業の概要

平成26年度の事業の概要は次のとおりであります。

### (1) おもな取組み

看護学部および総合人間学部の教育充実に取り組むと共に学生募集に力を注ぎました。また、平成25年4月から大学院看護学研究科を開設し、2年目となる今年度は4名が入学、9名となりました。大学・短期大学においては就職氷河期といわれる昨今の就職難に対応した学生の就職活動支援を行うべくキャリアサポートシステムの運用を行い、就職状況の維持・アップに努めました。

#### ① 山陽学園大学

- ・看護研修センターによる認定看護師教育課程（「皮膚・排泄ケア」分野）を開講しました。岡山県の看護職員専門分野研修事業の指定を受け、平成26年6月～平成27年2月の間実施し、9名の修了生を出しました。
- ・中学、高校、養護教諭を対象にした教員免許状更新講習「青年期の自己表現の支援」（選択領域6時間）を8月7日に実施し、41名が参加、「岡山カルチャーゾーンの魅力～美術館・博物館を巡る～」（選択領域6時間）を10月11日に実施し、54名が参加しました。

#### ② 山陽学園短期大学

幼稚園教諭を対象にした教員免許状更新講習「発達障害－発達障害の現状と課題」（選択領域6時間）を8月21日に実施し、19名が参加しました。

#### ③ 大学・短期大学共通

- ・保護者懇談会を6月1日に開催し、189名が参加しました。
- ・大学ポータル（全国の各大学の情報を共通のフォーマットでホームページに公表する仕組みであり、10月より稼働が開始）において、必要な情報を公表しました。

#### ④ 山陽女子高等学校・山陽女子中学校共通

中高6年間の流れの中で、コースごとの目標を設定し、教科指導の計画と工夫の再構築を行いました。特に中学の特別進学コースにおいて、教材の精選や先取り学習等を重視したシラバスを作成しました。

#### ⑤ 山陽学園短期大学附属幼稚園

- ・大学の看護学部並びに短期大学の食物栄養学科、幼児教育学科と連携し、歯磨き指導等の共催行事及び花植え、野菜植え等の環境教育を実施しました。
- ・茶道の会、陶芸教室を開催し、子供たちのマナーの習得、集中力、主体性の育成はもちろん、人としての心情面を育みました。

### (2) 学生生徒等の確保

大学院看護学研究科・看護学部・総合人間学部、高校エクセルコース、中学特別進学コースの一層の周知を図るため、大学・短期大学では平成26年度に各学科で策定したアクションプランを確実に実施し、その他の諸事業も鋭意継続実施した。特にTVCM放映・新聞（山陽新聞「岡山の学校へ行こう」企画への参加等）等の各種メディアを活用し、幅広い年代をターゲットとした広報を行った。高校訪問についても、訪問校に重

点度を設け、訪問者も限定して行った。その結果オープンキャンパスの参加者数は対前年107%、推薦・AO入試の志願者数は対前年104%と増加した。高校・中学では中学、小学校、学習塾の訪問を更に強化し、地域別に募集活動の見直しを行い、重点地区を作り、教職員の地道な訪問活動・OS等の企画により、中高の募集定員合計数を確保しました。

#### オープンキャンパス・オープンスクール

##### ア. 大学・短期大学

第1回（6月21日（土））	参加者	242名
第2回（7月21日（月））	〃	268名
第3回（8月23日（土））	〃	280名
第4回（9月27日（土））	〃	120名
※大学祭期間中（10月25日（土）、26日（日））		
入試相談コーナー	参加者	45名

##### イ. 高等学校

第1回（6月22日（日））	参加者	178名
（7月12日（土））	〃	292名
第2回（10月5日（日））	〃	324名
第3回（11月23日（日））	〃	409名

##### ウ. 中学校

第1回（6月22日（日））	参加者	103名
オープン模試（10月5日（日））	〃	217名
第2回（11月23日（日））	〃	135名

### (3) 地域・社会サービス

これまで実施してきた文化セミナー、公開講座及び「Sanyo子育て愛ねっと」等、地域連携事業の充実を図り地域との交流を推進しました。

#### ①法人

##### 山陽学園文化セミナー

地域への貢献の一環として、山陽学園文化セミナーを開催しました。今年度は校舎新築工事の影響により規模を縮小し、「教養講座聖書に学ぶ」、「キッズ卓球教室」のみ開講しました。（参加者延べ 56名）

#### ②大学・短期大学

##### ア. 公開講座

「生涯現役社会を目指して 健やかな高齢期のために認知症カフェの開き方を学ぶ」をテーマに3講座、「普通救命講習Ⅰ」を1講座、11月に計4講座開催しました。（参加者延べ113名）

##### イ. 公開講演会

- i 上代皓三記念講演会を5月28日（水）に開催しました。（参加者200名）  
 テーマ トルストイのメッセージ  
 講師 太田 健一氏（山陽学園大学名誉教授）
- ii 公開講演会を11月2日（日）に開催しました。（参加者77名）



テーマ 指導とは共に夢を語り合うことなり

講師 武富 豊氏（天満屋陸上部総監督）

ウ. その他

- i 幼児教育学科、食物栄養学科、看護学科と地域及び行政の連携による「Sanyo子育て愛ねっと実行委員会」が「おかやま子育てカレッジ地域貢献事業」の指定を受け、以下の活動を行いました。
  - ・親子交流会  
親子交流広場3回 合計参加者 子ども109名 保護者78名
- ii 平井駐在所・岡山市危機管理課・平井栄町内会との避難訓練を実施しました。本学体育館で実施（10月12日）
- iii 地域の教育機関等へ講師を派遣しました。  
中学校・高等学校・大学への講師派遣：幼児教育・公衆衛生・看護・カウンセリング・文化的内容が主
- iv 学内外でボランティア活動を行いました。  
学生ボランティア、さんぽと隊による地域のこどもの見守りや学内外の安全啓発活動・ユネスコESD岡山大会への学生の参加
- v 「大学コンソーシアム岡山」の積極的活用を図りました。
  - ・地域貢献  
日曜日こども大学（6月1日）、七夕エコナイト各大学（7月6日）、東日本大震災復興支援ボランティア（8月23日～8月27日）
  - ・吉備創生カレッジ  
本学の教員が各分野に応じた内容を担当

③高等学校・中学校

ア. 講演会

創立128周年記念講演会・演奏会（参加者 約800名）

演題 「言葉の海へ」

講師 佐藤 雅代

イ. その他

- i 小学生・中学生対象の第11回上代記念音楽コンクールを、予選9月、本選は10月に実施し、入賞者記念演奏会を11月に開催しました。（参加者75名）
- ii チャリティリレーコンサートを5月、11月に実施し、参加費の一部を日本赤十字社に寄附しました。（参加者33名）

④短期大学附属幼稚園

地域との交流・ふれあいを大切にしました。

- ・地域ボランティアの方々との交流（もちつき会、菜園の手入れ等の各行事）
- ・地域子育て支援として未就園児ふれあい体験を無料で実施
- ・操南中学校、山陽女子中学校の職場体験の受け入れ

(4) 施設・設備の状況、整備

大学・短期大学図書館を土曜日に開館し、教育環境の充実を図りました。

①現有施設の所在地等

所在地	施設等	面積等	設置校
平井キャンパス (岡山県岡山市中区平井)	校地	47,674㎡	山陽学園大学 山陽学園短期大学 山陽学園短期大学附属幼稚園
	校舎他	18棟	
門田屋敷キャンパス (岡山県岡山市中区門田屋敷)	校地	31,899㎡	山陽女子高等学校 山陽女子中学校
	校舎他	14棟	
その他 (岡山県真庭市)	校地	10,305㎡	

②今年度の主な整備

・高等学校・中学校

校舎新築経費(平成26年度支払分)	637,542千円
埋設ガス管改善工事	3,801千円
テニスコート西側防球ネット工事	3,500千円

### 3. 財務の概要

#### (1) 決算の概要

※ 各表は、項目ごとに千円未満を四捨五入しており項目の合計金額と合計欄の金額は一致していません。

#### ① 貸借対照表の状況

貸借対照表は、ある時点での財産を一覧表にしたものです。財政の状態を見ることができます。

### 貸借対照表

(単位 千円)

科 目	26年度	25年度	増 減
固 定 資 産	6,733,905	6,664,695	69,211
流 動 資 産	768,425	772,364	△ 3,939
資産の部 合計	7,502,330	7,437,059	65,272
固 定 負 債	963,499	835,711	127,789
流 動 負 債	350,824	345,707	5,118
負債の部 合計	1,314,324	1,181,417	132,906
基本金の部 合計	10,288,631	9,911,529	377,102
消費収支差額	△ 4,100,625	△ 3,655,888	△ 444,737
計	7,502,330	7,437,059	65,272

減価償却額の累計額の合計額

4,480,891千円

退職給与引当金の額は、全教職員に係わる期末要支給額の100%を基にして算定、計上している。

翌会計年度以降の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額

478,148千円

#### 【貸借対照表の概要】

資産の部について前年度と比べた主な増減要因は次のとおりです。

有形固定資産は、高等学校中学校の校舎新築をはじめとした取得額の増加などにより4億8,238万円の増加となりました。また、その他の固定資産は、高等学校中学校の校舎新築資金及び学園運営に充当する特定資産の取崩しを含め4億1,317万円減少しました。以上のことから固定資産は6,921万円増加し、流動資産の増減も合わせた資産の部合計（資産総額）は6,527万円の増加となりました。

負債の部について前年度と比べた主な増減要因は次のとおりです。

長期借入金で高等学校中学校の校舎新築資金を新規借り入れした影響などにより固定負債は1億2,779万円増加し、負債の部合計は1億3,291万円の増加となりました。

基本金については、基本金要組入額から借入金による未組入額を除いた額を組み入れ3億7,710万円増加しました。なお未組入高4億7,815万円は、翌会計年度以

後の会計年度において借入金の返済等にあわせ組入れを行います。

以上の増減により、平成26年度末の財政状態は資産総額75億233万円、負債総額13億1,432万円、基本金総額102億8,863万円となり、消費収支差額は41億62万円の翌年度繰越消費支出超過額となりました。

## ② 収支計算書の状況

消費収支計算書は、会計年度の帰属収入、基本金組入額、消費収入および消費支出の内容並びに消費収支の均衡状態を示したものです。経営の状態を見ることができます。

### 消費収支計算書（前年度対比）

（単位 千円）

消費収入の部			
科目	26年度	25年度	増減
学生生徒等納付金	1,463,979	1,481,070	△ 17,091
手数料	23,478	24,876	△ 1,398
寄付金	51,957	55,711	△ 3,754
補助金	422,763	410,533	12,231
資産運用収入	19,058	23,511	△ 4,453
資産売却差額	329	2,118	△ 1,790
事業収入	20,325	22,579	△ 2,253
雑収入	67,732	14,256	53,476
帰属収入合計	2,069,622	2,034,653	34,969
基本金組入額合計	△ 377,102	△ 521,228	144,126
消費収入の部合計	1,692,520	1,513,425	179,095
消費支出の部			
科目	26年度	25年度	増減
人件費	1,388,142	1,272,947	115,194
教育研究経費	555,773	547,751	8,022
管理経費	159,296	132,193	27,103
借入金等利息	5,454	6,664	△ 1,210
資産処分差額	22,565	20,305	2,260
徴収不能額等	6,026	4,013	2,014
消費支出の部合計	2,137,257	1,983,874	153,383
当年度消費支出超過額	444,737	470,449	△ 25,712
前年度繰越消費支出超過額	3,655,888	3,197,239	
基本金取崩額	0	11,800	
翌年度繰越消費支出超過額	4,100,625	3,655,888	

資金収支計算書は、会計年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容並びに支払資金のてん末を明らかにしたものです。資金繰りの状態を見ることができます。

## 資金収支計算書（前年度対比）

（単位 千円）

収 入 の 部			
科 目	26年度	25年度	増 減
学生生徒等納付金収入	1,463,979	1,481,070	△ 17,091
手数料収入	23,478	24,876	△ 1,398
寄付金収入	51,041	55,014	△ 3,973
補助金収入	422,763	410,533	12,231
資産運用収入	19,058	23,511	△ 4,453
資産売却収入	0	0	0
事業収入	20,325	22,578	△ 2,252
雑収入	141,846	34,125	107,721
借入金等収入	181,100	68,760	112,340
前受金収入	255,143	256,272	△ 1,130
その他の収入	607,767	859,670	△ 251,903
資金収入調整勘定	△ 323,546	△ 291,687	△ 31,858
前年度繰越支払資金	743,753	564,846	178,908
収入の部合計	3,606,708	3,509,567	97,140
支 出 の 部			
科 目	26年度	25年度	増 減
人件費支出	1,460,191	1,292,904	167,286
教育研究経費支出	402,291	389,281	13,010
管理経費支出	139,927	113,209	26,718
借入金等利息支出	5,454	6,664	△ 1,210
借入金等返済支出	41,322	29,370	11,952
施設関係支出	641,590	622,898	18,692
設備関係支出	35,278	37,858	△ 2,580
資産運用支出	170,000	280,554	△ 110,554
その他の支出	42,099	28,200	13,899
資金支出調整勘定	△ 24,104	△ 35,125	11,021
次年度繰越支払資金	692,661	743,753	△ 51,093
支出の部合計	3,606,708	3,509,567	97,140

### 【収支計算書の概要】

消費収支の均衡状態を示し、経営の状態を見ることができる「消費収支計算書」を基

に収支の状況を説明します。

消費収入について前年度と比べた主な増減要因は次のとおりです。

大学、短期大学部門で生徒数が減少した影響により、学生生徒等納付金は1,709万円の減額となりました。

補助金は、学校の経常経費に対して交付される補助金について、大学、短期大学は日本私立学校振興・共済事業団から、高等学校・中学校・幼稚園には岡山県から交付がありました。短期大学では学生数の減などにより減額となりましたが、大学、高等学校及び幼稚園では増額となったため、総額で1,223万円の増額となりました。

雑収入では、退職金支給に対する私立大学退職金財団交付金が前年度に比して大幅な増額であったことから5,348万円の増額となりました。

以上のことから帰属収入合計は3,497万円増額の20億6,962万円となりました。

基本金組入額は、1億4,413万円の減となり、帰属収入合計に基本金組入額を加味した消費収入は、前年度と比べ1億7,910万円増収の16億9,252万円となりました。

消費支出について前年度と比べた主な増減要因は次のとおりです。

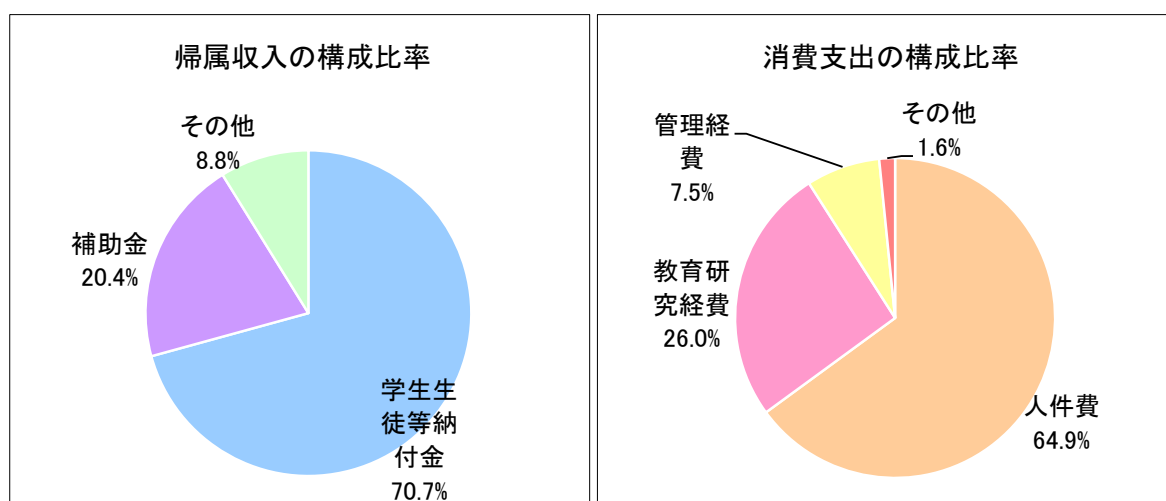
人件費は、退職給与引当金繰入額が前年度より大幅に増額となり、総額で1億1,519万円の増額となりました。

教育研究経費は、減価償却額の増などにより802万円の増額、管理経費では、委託費の増などにより2,710万円の増額となりました。

以上のことから消費支出は、前年度と比べ1億5,338万円増額の21億3,726万円となりました。

結果、消費収入から消費支出を差し引いた当年度消費収支差額は4億4,474万円の支出超過となり、基本金取崩額後の翌年度繰越消費支出超過額は41億63万円となりました。

なお、資金収支計算書から資金繰りの状態を説明しますと、学生生徒等納付金収入、補助金収入等の学校に帰属する収入に加え、今年度の運営原資補填、校舎新築資金として特定資産の取崩しを行いました。人件費をはじめとした法人全体の事業活動にかかる経費、校舎新築関係経費を支出し、次年度繰越支払資金は6億9,266万円、資金収支の規模は36億671万円となりました。



## (2) 経年比較

※ 各表は項目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していないことがあります。

### ① 貸借対照表

(単位：千円)

	22年度末	23年度末	24年度末	25年度末	26年度末
固定資産	7,084,652	6,894,145	6,700,242	6,664,695	6,733,905
流動資産	458,939	507,106	647,125	772,364	768,425
資産の部合計	7,543,590	7,401,251	7,347,367	7,437,059	7,502,330
固定負債	825,688	821,944	804,132	835,711	963,499
流動負債	315,670	324,444	338,373	345,707	350,824
負債の部合計	1,141,358	1,146,388	1,142,506	1,181,417	1,314,324
基本金の部合計	9,389,239	9,396,524	9,402,101	9,911,529	10,288,631
消費収支差額の部合計	△ 2,987,007	△ 3,141,661	△ 3,197,239	△ 3,655,888	△ 4,100,625
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	7,543,590	7,401,251	7,347,367	7,437,059	7,502,330
参考) 減価償却額の累計額の合計額	4,024,897	4,204,642	4,362,286	4,458,042	4,480,891

### ② 収支計算書

#### ア. 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
学生生徒等納付金収入	1,132,795	1,294,499	1,444,594	1,481,070	1,463,979
手数料収入	24,743	24,563	24,982	24,876	23,478
寄付金収入	10,570	11,729	13,462	55,014	51,041
補助金収入	506,631	455,655	393,826	410,533	422,763
資産運用収入	28,271	28,811	27,617	23,511	19,058
資産売却収入	58	0	80	0	0
事業収入	6,189	27,931	27,993	22,578	20,325
雑収入	80,529	64,910	214,281	34,125	141,846
借入金等収入	3,810	3,160	4,170	68,760	181,100
前受金収入	266,870	281,220	271,605	256,272	255,143
その他の収入	303,678	123,155	422,183	859,670	607,767
資金収入調整勘定	△ 354,398	△ 281,934	△ 363,490	△ 291,687	△ 323,546
前年度繰越支払資金	299,310	382,418	491,557	564,846	743,753
収入の部合計	2,309,057	2,416,117	2,972,860	3,509,567	3,606,708

支出の部	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
人件費支出	1,315,868	1,327,507	1,482,155	1,292,904	1,460,191
教育研究経費支出	393,633	400,428	403,838	389,281	402,291
管理経費支出	112,680	114,039	105,276	113,209	139,927
借入金等利息支出	7,050	7,127	7,031	6,664	5,454
借入金等返済支出	2,140	3,870	4,840	29,370	41,322
施設関係支出	2,099	452	74	622,898	641,590
設備関係支出	53,780	31,229	38,952	37,858	35,278
資産運用支出	35,519	35,243	360,619	280,554	170,000
その他の支出	27,464	22,164	22,177	28,200	42,099
資金支出調整勘定	△ 23,595	△ 17,499	△ 16,946	△ 35,125	△ 24,104
次年度繰越支払金	382,418	491,557	564,845	743,753	692,661
支出の部合計	2,309,057	2,416,117	2,972,860	3,509,567	3,606,708

イ. 消費収支計算書

(単位：千円)

消費収入の部	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
学生生徒等納付金	1,132,795	1,294,499	1,444,594	1,481,070	1,463,979
手数料	24,743	24,563	24,982	24,876	23,478
寄付金	11,108	12,372	14,845	55,711	51,957
補助金	506,631	455,655	393,826	410,533	422,763
資産運用収入	28,271	28,811	27,617	23,511	19,058
資産売却差額	13	0	6,856	2,118	329
事業収入	6,189	27,931	27,993	22,579	20,325
雑収入	71,791	14,533	89,892	14,256	67,732
帰属収入合計	1,781,541	1,858,364	2,030,605	2,034,653	2,069,622
基本金組入額合計	△ 36,741	△ 12,454	△ 17,217	△ 521,228	△ 377,102
消費収入の部合計	1,744,800	1,845,910	2,013,388	1,513,425	1,692,520

消費支出の部	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
人件費	1,305,294	1,275,035	1,365,244	1,272,947	1,388,142
教育研究経費	580,658	578,001	571,228	547,751	555,773
管理経費	140,727	139,009	127,482	132,193	159,296
借入金等利息	7,050	7,127	7,031	6,664	5,454
資産処分差額	546	2,241	5,058	20,305	22,565
徴収不能額等	3,706	4,320	4,563	4,013	6,026
消費支出の部合計	2,037,981	2,005,733	2,080,606	1,983,874	2,137,257
当年度消費支出超過額	293,181	159,823	67,219	470,449	444,737
前年度繰越消費支出超過額	2,724,565	2,987,007	3,141,661	3,197,239	3,655,888
基本金取崩額	30,739	5,169	11,640	11,800	0
翌年度繰越消費支出超過額	2,987,007	3,141,661	3,197,239	3,655,888	4,100,625

(3) 主要な財務比率比較

(単位：%)

比率名	算式	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入} - \text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	-14.4%	-7.9%	-2.5%	2.5%	-3.3%
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	116.8%	108.7%	103.3%	131.1%	126.3%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	63.6%	69.7%	71.1%	72.8%	70.7%
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	73.3%	68.6%	67.2%	62.6%	67.1%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	32.6%	31.1%	28.1%	26.9%	26.9%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	7.9%	7.5%	6.3%	6.5%	7.7%
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	145.4%	156.3%	191.2%	223.4%	219.0%
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金 ※1}}$	17.8%	18.3%	18.4%	18.9%	21.2%
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金 ※2}}$	84.9%	84.5%	84.5%	84.1%	82.5%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	96.9%	96.9%	96.9%	96.6%	95.6%

※1 自己資金＝基本金＋消費収支差額

※2 総資金＝負債＋基本金＋消費収支差額



(4) その他

① 補助金の状況（経常費補助金を除く）

- ・ 山陽学園短期大学  
看護職員専門分野研修事業費補助金…………… 882千円
  
- ・ 山陽女子高等学校  
私立学校教育改革等推進補助金…………… 1,795千円  
納付金減免補助金…………… 10,297千円  
特色教育施設設備整備費補助金…………… 317千円  
人権教育指導費補助金…………… 311千円
  
- ・ 山陽女子中学校  
私立学校教育改革等推進補助金…………… 2,111千円  
人権教育指導費補助金…………… 99千円
  
- ・ 山陽学園短期大学附属幼稚園  
私立学校教育改革等推進補助金…………… 400千円  
幼児教育の質の向上のための緊急環境整備事業補助金…………… 69千円  
私立学校教育改革等推進補助金…………… 299千円  
私立学校教育改革等推進補助金…………… 4,759千円